

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年9月9日

**【四半期会計期間】** 第115期第1四半期(自 平成27年5月1日 至 平成27年7月31日)

**【会社名】** 日東製網株式会社

**【英訳名】** NITTO SEIMO CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 取締役社長 小林 宏 明

**【本店の所在の場所】** 東京都港区新橋二丁目20番15-701号

**【電話番号】** 03(3572)5376(代表)

**【事務連絡者氏名】** 総務部長 星 野 正 樹

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区新橋二丁目20番15-701号

**【電話番号】** 03(3572)5376(代表)

**【事務連絡者氏名】** 総務部長 星 野 正 樹

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第114期 第1四半期 連結累計期間	第115期 第1四半期 連結累計期間	第114期
会計期間	自 平成26年 5月 1日 至 平成26年 7月 31日	自 平成27年 5月 1日 至 平成27年 7月 31日	自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月 30日
売上高 (千円)	3,876,474	4,027,665	16,547,191
経常利益 (千円)	87,603	148,984	681,455
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	15,133	64,028	417,576
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	47,934	133,376	605,414
純資産額 (千円)	3,438,277	4,042,724	3,987,269
総資産額 (千円)	18,512,713	19,652,111	18,780,775
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	0.58	2.47	16.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	18.1	20.0	20.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

## 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国経済の減速や欧州でのギリシャの債務問題等の不安要素がありましたが、国内企業は概ね業績の改善が続き、設備投資や雇用の改善が見られるなど、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループ主力ユーザーの水産業界におきましては、漁獲高の減少傾向が続きマグロの漁獲規制など依然として厳しい状況にありますが、マイワシやサバ等の一部の水産資源が復活するなど明るい兆しも見られます。また、燃油代が下落したことで、経費の削減が行われ、一部の漁船漁業ではありますが、漁業資材等の設備投資意欲がでてきております。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、陸上用ネットの受注が減少しましたが、国内外の旋網の受注が好調に推移したことにより、前年同期と比べて増加しました。営業利益は、売上高の増加及び漁網の粗利益率が改善したこと等により前年同期と比べて増加しました。営業外収益は前年同期と比べて為替差益が減少しました。営業外費用は、業績や財務指標の改善により支払利息が減少しましたが、持分法による投資損失が発生しました。特別損失は、固定資産売却損が発生しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,027百万円（前年同期比3.9%増）、営業利益は178百万円（前年同期比73.5%増）、経常利益は148百万円（前年同期比70.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は64百万円（前年同期比323.1%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### [漁業関連事業]

売上高は3,428百万円（前年同期比6.4%増）となりました。主な要因は、国内外の旋網の受注が順調に推移したことによるものです。利益面は、旋網等の漁網の粗利益率が改善したことにより、セグメント利益は187百万円（前年同期比82.2%増）となりました。

#### [陸上関連事業]

売上高は593百万円（前年同期比8.4%減）となりました。主な要因は、施工工事は順調に推移していますが、主力である防虫網や獣害防止ネットの受注が減少したことによるものです。利益面は、売上高が減少したことにより、セグメント損失は9百万円（前年同期は0百万円の損失）となりました。

#### [その他]

前期に引き続き機械の部品加工等の受注が低調に推移したこと等により、売上高5百万円（前年同期比2.0%減）となりました。利益面は、売上高が減少したことにより、セグメント利益は0百万円（前年同期比36.2%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ871百万円増加し、19,652百万円となりました。その主な内容は以下のとおりであります。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比べ999百万円増加し、13,883百万円となりました。これは、売上債権及びたな卸資産が増加したこと等によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ127百万円減少し、5,765百万円となりました。これは、投資その他の資産が減少したこと等によるものです。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比べ532百万円増加し、9,299百万円となりました。これは、仕入債務及び短期借入金が増加したこと等によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末と比べ283百万円増加し、6,309百万円となりました。これは、長期借入金が増加したこと等によるものです。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ55百万円増加し、4,042百万円となりました。これは、配当金の支払いにより利益剰余金が減少しましたが、為替換算調整勘定が増加したこと等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は39百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年9月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,050,000	26,050,000	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、1,000株であります。
計	26,050,000	26,050,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年7月31日		26,050,000		1,378,825		510,292

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 106,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,823,000	25,823	同上
単元未満株式	普通株式 121,000		同上
発行済株式総数	26,050,000		
総株主の議決権		25,823	

(注) 1 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年4月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式451株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日東製網株式会社	東京都港区新橋 二丁目20番15-701号	106,000		106,000	0.41
計		106,000		106,000	0.41

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成27年5月1日から平成27年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年5月1日から平成27年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	678,822	818,124
受取手形及び売掛金	7,059,324	7,560,065
商品及び製品	3,101,696	3,428,452
仕掛品	915,236	849,830
原材料及び貯蔵品	1,026,383	1,078,864
繰延税金資産	84,970	65,324
その他	358,652	423,063
貸倒引当金	340,620	340,181
流動資産合計	12,884,465	13,883,543
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,240,061	2,225,110
その他(純額)	1,953,339	2,004,056
有形固定資産合計	4,193,400	4,229,166
無形固定資産	77,919	77,453
投資その他の資産		
長期営業債権	950,334	696,148
その他	1,409,567	1,507,688
貸倒引当金	738,315	744,977
投資その他の資産合計	1,621,585	1,458,859
固定資産合計	5,892,905	5,765,478
繰延資産	3,404	3,089
資産合計	18,780,775	19,652,111

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,374,278	3,473,529
短期借入金	4,355,160	4,532,555
賞与引当金	209,604	174,161
その他	828,258	1,119,392
流動負債合計	8,767,301	9,299,640
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	4,779,939	5,088,449
長期未払金	118,972	110,693
役員退職慰労引当金	114,750	121,227
退職給付に係る負債	640,750	606,099
繰延税金負債	159,452	172,407
その他	12,339	10,868
固定負債合計	6,026,204	6,309,746
負債合計	14,793,506	15,609,386
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,378,825	1,378,825
資本剰余金	510,292	510,292
利益剰余金	2,014,759	2,000,957
自己株式	16,541	16,632
株主資本合計	3,887,335	3,873,442
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	95,723	119,065
為替換算調整勘定	102,113	60,726
その他の包括利益累計額合計	6,390	58,338
非支配株主持分	106,324	110,943
純資産合計	3,987,269	4,042,724
負債純資産合計	18,780,775	19,652,111

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年7月31日)
売上高	3,876,474	4,027,665
売上原価	3,099,278	3,171,642
売上総利益	777,196	856,023
販売費及び一般管理費	674,133	677,211
営業利益	103,062	178,812
営業外収益		
受取利息	8,367	7,372
為替差益	8,295	2,806
その他	25,787	29,437
営業外収益合計	42,450	39,616
営業外費用		
支払利息	40,459	34,815
手形売却損	13,797	8,293
持分法による投資損失	-	15,674
その他	3,652	10,660
営業外費用合計	57,909	69,444
経常利益	87,603	148,984
特別損失		
固定資産売却損	-	7,100
固定資産除却損	210	51
特別損失合計	210	7,151
税金等調整前四半期純利益	87,392	141,832
法人税、住民税及び事業税	44,500	47,472
法人税等調整額	23,678	25,709
法人税等合計	68,178	73,181
四半期純利益	19,214	68,651
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,080	4,622
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,133	64,028

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年7月31日)
四半期純利益	19,214	68,651
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23,439	23,338
為替換算調整勘定	4,757	41,386
退職給付に係る調整額	10,038	-
その他の包括利益合計	28,720	64,725
四半期包括利益	47,934	133,376
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	44,423	128,757
非支配株主に係る四半期包括利益	3,510	4,619

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年7月31日)
受取手形割引高	2,753,688千円	2,981,633千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年7月31日)
減価償却費	100,103千円	107,020千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成26年7月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年7月25日 定時株主総会	普通株式	64	2.5	平成26年4月30日	平成26年7月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成27年7月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年7月29日 定時株主総会	普通株式	77	3.0	平成27年4月30日	平成27年7月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成26年5月1日至平成26年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	漁業関連事業	陸上関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,223,094	648,162	3,871,256	5,217	3,876,474
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,223,094	648,162	3,871,256	5,217	3,876,474
セグメント利益又は損失( )	103,124	555	102,568	493	103,062

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業用機械・搬送設備等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失( )の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成27年5月1日至平成27年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	漁業関連事業	陸上関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,428,838	593,713	4,022,552	5,113	4,027,665
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,428,838	593,713	4,022,552	5,113	4,027,665
セグメント利益又は損失( )	187,885	9,388	178,497	315	178,812

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業用機械の製造・メンテナンス等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失( )の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年7月31日)
1株当たり四半期純利益金額	0円58銭	2円47銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	15,133	64,028
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益金額(千円)	15,133	64,028
普通株式の期中平均株式数(千株)	25,997	25,943

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年9月3日

日東製網株式会社  
取締役会 御中

### 東陽監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 野 邊 義 郎 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 久 貝 陽 生 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 安 田 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日東製網株式会社の平成27年5月1日から平成28年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成27年5月1日から平成27年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年5月1日から平成27年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日東製網株式会社及び連結子会社の平成27年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。